

(2) 実践例 2 B 中学校 (第 3 学年, 学級数 8)

ア 選択教科の開設について

(ア) 基本的な考え方

平成 4 年 2 月に, 平成 5 年度の選択教科履修幅の拡大について職員間で研究協議し, 選択教科開設の基本的な方針を決定した。

平成 5 年度の教育課程を表 1 のように決定した。

その結果, 2 年生は, 音楽, 美術, 保健体育, 技術・家庭の 4 教科の中から 1 教科を選択して通年で学習する。3 年生は, 2 期(前・後期)に分けて 2 教科を選択して学習するようにした。英語を除いた 8 教科を A 群・B 群に分けて両群から 1 教科ずつ選択して学習するようにした。

保護者には学年通信等によって趣旨を説明し, 生徒には, 学級活動・学年集会などで, 選択教科の意義, 選択する上での心構えなどを説明し理解を得るようにした。

学習したい内容について生徒の希望調査を行ない, その結果をもとに, 資料 1 のように開設教科を提示した。

それをもとに選択教科を考えさせ, 改めて希望調査を実施し, 平成 5 年 3 月に次年度の選択教科学級・コースを決定した。

表 1 平成 5 年度の週時数

学 年	国 語	社 会	数 学	理 科	音 楽	美 術	保 健 体 育	技 術 家 庭	道 徳	特 活	選 択		
											英語	以外語	
1	5	4	3	3	2	2	3	2	1		下限 1	上限 4	0
2	4	4	4	3	1.5	1.5	3	2	1		下限 1	上限 4	1
3	4	上限 3	4	上限 4	1	1	下限 3	上限 3	1		下限 1	上限 4	1

資料 1 平成 5 年度開設選択教科

教科	コース	制限人数	予 想 さ れ る 学 習 活 動 内 容
国 語		40人 まで	・戯曲(夕鶴) ・問題作成(文法、漢文など) ・書道 ・討論
社 会		40人 まで	社会の学習(地理、歴史、公民)のなかで、興味 を持っていることについて調べ、壁新聞やプリント にまとめる。 <例> ・日本とアジアの国々の関係について ・歴史上の人物について ・都市の環境問題について
数 学		40人 まで	身近な題材を取り上げ、操作活動などを通して、 考えることの楽しさ、おもしろさを味わう。 <例> ・数の不思議 ・数遊び ・数学の歴史
理 科	A	40人 まで	<第 1 分野> ・結晶作り ・モーターの作り方 ・電池作り ・ガラスや水の屈折率を求める ・メッキ ・とつレンズ、おうレンズ調べ ・炎色反応 ・望遠鏡を作る ・植物の色素による酸、アルカリ調べ
理 科	B	40人 まで	<第 2 分野> ・葉のなかのデンプン ・噴火モデル実験 ン調べ ・地層モデル作り ・心臓の拍動と脈拍 ・結晶の生成過程の観察 ・ミミズの体 (サリチル酸フェニル) ・プレパラートの作 ・造岩鉱物の観察(カマウ カ)
美 術		40人 まで	・水彩 ・油絵 ・イラストレーション など
保 健 体 育	A 男子のみ	40人 まで	・陸上競技 —— 長距離走、障害走、走り幅跳び ・球技 —— バレーボール、サッカー、ソフ トボール、バスケットボール
保 健 体 育	B 女子のみ	40人 まで	・陸上競技 —— 長距離走、障害走、走り幅跳び ・球技 —— バレーボール、サッカー、ソフ トボール、バスケットボール
技 術 家 庭	A	36人 まで	情報基礎 ロゴライターによるプログラミング ※ フロッピーディスク代として、300円が 必要となります。
技 術 家 庭	B	36人 まで	染色・手芸 ろうけつ染による、のれん・壁かけ・テーブルセ ンターなどの製作 ※ 製作費用1000円

保健体育 2

(イ) 選択教科「保健体育」について

選択教科としての保健体育では、生徒一人一人が主体的に取り組むようにするために、生徒自らが、自己の特性や興味・関心に応じた運動種目を選択できるようにし、さらに、学習計画から授業の学習活動全体（練習，ゲーム，反省・評価）にいたるまでを生徒自身が行えるようにすることをねらいとした。

その指導にあたっては、話し合いがスムーズにいくように援助したり、話し合いのための資料などを準備したりするなど、生徒の主体的な学習への取り組みを促すように支援した。特に第1～2時の学習計画・オリエンテーションにおける生徒自身による学習体制作りを重視した。

教科の保健体育では、男女共習を実施していることから、選択教科「保健体育」では、男子コース・女子コースと、男女別のコースを設定した。

イ 指導の実際（第3学年，保健体育，男子コース）

【生徒の実態】（男子32人）

- ・生徒は全員が、「運動が好きである。」という理由で保健体育を選択している。選択希望調査に書かれていた希望運動種目では球技が多く、個人的スポーツ（陸上競技，水泳など）を書いたものはいなかった。
- ・運動能力が高い生徒が多く，部活動も運動部に所属している生徒が多い。（野球部7人，陸上競技部7人，サッカー部5人，その他の運動部9人）
- ・学級のリーダーとしてリーダーシップを取れる生徒が5人ほどいる。

【第1時の学習活動】

- 教師の自己紹介と選択教科「保健体育」の学習の進め方
 - ・選択教科の意義（自分たちで計画し，自分たちで進める学習である。）
 - ・本時の流れ（学習する運動種目の決定）
- 生徒の自己紹介（クラス，所属部活動，好きなスポーツなど）
- やりたい運動種目のアンケート（挙手による。体育実技の副読本を資料として考えさせる。種目名板書）
 - ・みんなで楽しめる運動種目。2つか3つに挙手。
- アンケート結果の集計（板書による）
 - サッカー→23人，バレーボール→15人，ハンドボール→10人
 - バスケットボール→4人，ソフトボール→3人，その他
- 運動種目決定と計画（概略）話し合い

- ・ 1 番人気の高いサッカーを全員でやること。
- ・ バレーボール，ハンドボールは希望により別れて実施。

○ 次時の予定（学習計画，グループづくり）

【第 2 時の学習活動】

○ サッカーのグループ（チーム）づくり

4 人のリーダーを選出してからグループを作る。4 人のリーダーの話し合いによってチーム員を決定。4 つのチームの力が同じぐらいになるように助言しながら決定できるようにした。（所属部，学級などを考慮する）

○ 学習計画づくりの話し合い（グループ，全体）

第 1 時の話し合いをもとに，学習計画を立てた。

サッカーは選択教科の学習の仕方・進め方を定着させる種目とし，バレーボール・ハンドボールの学習は，生徒が主体的に学習を進めるようにした。

学習計画は資料 2 のようにまとめた。



写真 1 話し合いの様子

資料 2 学習計画表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
内容・種目	学習計画	サ ッ カ ー						ま と め と 学 習 計 画	バ レ ー ボ ー ル						学 習 の ま と め		
		キムラ : マサアキ シリーズ : シリーズ :							ハ ン ド ボ ー ル								
		(チームの入れ替え)															

○ 雨天時の計画についての話し合い

フットバレーボール…体育館でキックとヘディングでバレーボール
（ルールを考えて，トーナメント戦）

【第 3 時から活動】

学習計画表にそって学習を進めるようにした。

保健体育 2

(ア) 学習指導案

第3学年 選択教科「保健体育」学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 単元名 球技 (サッカー)

2 運動の特性

(1) 運動の一般的特性

主に足を使ったパスやドリブルでボールを進め、相手ゴールにシュートして得点をわらい合い、集団対集団で勝敗を競い合うところに楽しさや喜びがある運動である。

(2) 生徒から見た特性

- シュートをして得点が入ると楽しい。
- 守備をがんばって相手の攻撃を防ぐと楽しい。
- チームで協力してゲームに勝つと楽しい。

3 生徒の実態 (男子 32名)

全員が「運動が好きである。」という理由で体育を選択している。特に球技に関心が高い。

運動能力が高い生徒が多く、部活動も球技関係の部に所属しているものが多い。(野球部7人、陸上競技部7人、サッカー部5人、その他の運動部8人) 学年のリーダーとして活躍する生徒も5名いる。

4 指導観

選択教科の体育では生徒の能力・適性、興味・関心等に応じて、運動を選択し、必修教科で学習した内容をさらに深化、発展、応用できるようにしなければならない。

そのため、単目の選択、グループ作り、学習計画などの導入段階から生徒の自発的・自主的な活動を中心として指導・援助していかなければならない。

5 学習計画 ○が本時

	1	2	③	4	5	6	7	8	9
10	学		開・4対4の試合・試合後・練習						反次
20	習		チームの練習						省の
30	計		キムラシリーズ			マサキシリーズ			計
40	画		(9-11, 15分)			(9-11, 15分)			画
50			整理運動						

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

相手チームの特徴を考え、作戦を立てて練習やゲームを楽しむことができる。

(2) 準備・資料 学習カード、ハンドボールゴール、ボール、ゼッケン

(3) 展開

予想される生徒の活動	援助・指導の手立て
1 用具の準備と準備運動をする。 2 本時の学習について話し合う。 ・チームの問題と個人のもちて ・相手チームに勝つための作戦と練習内容、方法 学習課題 相手チームに勝つために、練習とゲームをがんばろう。	○ 手早く準備をするように声をかける。 ○ 学習カードの利用の仕方について助言する。 ○ 練習内容について資料をもとに助言する。
3 チームの練習をする。 ・パス (ショート、ロング) ・4対4のボールキープ ・4対4ミニゲーム ・センターリングシュート	○ 課題やねらいに合っていない練習をしている場合は具体的な練習方法について助言する。 ○ ゲームに近い状態の練習をするよう助言する。
4 ゲームをする。 ・A対C ・B対D 15分ハーフ 1/2コート ・ハーフタイムに作戦の確認	○ 良いプレーやがんばっている生徒に声をかけて元気のゲームができるよう援助する。 ○ ハーフタイムにリードされているチームにがんばるよう声をかける。
5 ゲームの反省を話し合う。 ・課題やめあての反省 ・ゲームの反省と感想 ・次の対戦チームの確認	○ 練習の成果があつたかどうかを確認するよう助言する。 ○ 次の試合に意欲が持てるような話をする。

(イ) 授業の記録

授業記録 選択教科「保健体育」 (平成5年10月28日第4校時)

学習の内容(・課題)	抽出生徒A	抽出生徒B	抽出生徒C
①用具の準備	・ボール、学習カードの準備をする。		・少し遅れて出てくる。
②あいさつ・準備運動 ・第1次リーグが始まること ・練習時間を有効に使うようにしよう。	・あいさつのリードをする	・真剣に話を聞いている	・きちんとあいさつする。
③話し合い	・話し合いの中心で、めあて練習内容、ポジションを決定する。	・班長に協力的で、ポジション等について意見を良く出している。	・記録を担当する。 ・めあての話し合いでは意見を出す。
④チーム練習 ・練習終了2分前、コートの準備をしよう	○動きながらのパスの練習。 ・練習の形をチーム全員に教えている。 ・他のチーム員練習を指示して、コーンを置きにゆく。	○ドリブルシュートの練習。 ・意欲的に練習に取り組んでいる。 ・ドリブルシュート5回	○ボールリテイングの練習 ・真剣に取り組むがうまく行かない。 ・シュートの練習もする。
⑤ゲーム	・「早く集まろう」 ・「行こうぜ」 ・中心的に活躍 ・効果的なパスドリブルが多く見られる。	・フォワードのポジション ・積極的にボールに絡み、ボールを良く送っていた。 ・2得点	・ディフェンスのポジション ・ボールがきても空振りが多く動かない。 ・攻撃はキープ

学習の内容(・課題)	抽出生徒A	抽出生徒B	抽出生徒C
・ホイッスルでゲーム終了の合図をする。 ・反省の話し合いに入ろう。	・チームをまとめて話し合いを進める。 ・4対2で勝った。 ・みんなが良く走ったこと ・個人の自己評価、感想を書くよう指示する。	・ボールの片付けをする。 ・自分の2点取ったこと。良いパスがきたことなどを話す。	・打たれたシュートに対して逃げてしまうことが多い。 ・反省の話し合いには参加できていない ・個人の反省は「まあまあがんばった」
・集合しよう。 ⑥全体の話し合い ・試合の結果はどうだったか各チームごと発表しよう。 ・点数を多くとられたチームは練習作戦とも工夫して行こう。 ・片付けをしっかりとやろう	「4対2で勝ちました。」	・班長の「12対0で勝った」という話をうれしそうに聞いている。 ・真剣に話を聞く。	・下を向いて話し合いに参加している様子がない。
⑦あいさつ・解散	・「ありがとうございました」	・元気にあいさつをする。	・元気にあいさつをする。
⑧片付け	・コーン、ボール、ゼッケン等を片付ける。		

保健体育

ウ 研究の成果と今後の課題

選択教科「保健体育」では、生徒が話し合いによって決定した種目への取り組みがたいへん意欲的であった。グループの練習計画、ゲームの課題作りとも各グループのリーダーを中心にきちんと進められ、めあてをもって取り組む学習活動の様子が見られた。

男女別のコースを設定したことは、男子にとって運動そのものを楽しむための運動量を確保し、運動の爽快感を味わえる活動ができた。さらに、グループで話し合う場を多く設定したことから、個人的な達成感・成就感とともに集団としての達成感・成就感も味わうことができたと思われる。

生徒の活動の様子を、抽出生徒の動きや生徒の自己評価などを通して考察すると、生徒はそれぞれ自分の課題をもって主体的に練習・ゲームに取り組む姿が浮き彫りにされた。中でも運動能力の高い生徒は、学習の中心としてリーダー的な動きが見られ、運動能力が比較的低い生徒でも楽しく学習に参加し、集中して取り組む様子が見られた。

前・後期に分けて2教科を学習することは、選択しようとする教科を決めにくい生徒にとって、ゆとりをもって教科を選ぶことができたようである。しかし、前・後期という短期の計画については、「もう少しゆっくり学習したい。」という感想や反省も出てきた。

一人一人の生徒が、自分の興味・関心をもった学習内容にじっくりと取り組むには、通年の方が望ましいと考える。そのためには、生徒自身が自分自身をよく知り、自分の特徴などを知った上で選択できるようにすること、さらに、生徒が選択できる幅を広げられるような学校側の諸条件を整備することなどが必要である。

5 おわりに

選択教科「保健体育」の授業は、生徒自身が運動種目を選択し、その学習の進め方を自分で決定していくような授業作りをしていけば、生徒は生き生きと活動し、一人一人の生徒が主体的に学習することになると考えられる。

しかし、自己評価では、技能的なめあての満足感を味わった生徒が少なかった。今後の課題として、技能的なめあての達成感を味わえるように、学習資料などを工夫していかなければならないと考える。